

平成 29 年第 1 回 施政方針

平成 29 年第 1 回小美玉市議会定例会を開催するにあたり、上程しております議案の説明に先立ちまして、市政運営に関する所信の一端を申し上げ、議員各位並びに市民の皆さまのご理解とご協力を賜りたいと存じます。

平成18年3月の町村合併後、新市の初代市長に就任して以来、小美玉市の発展に全力を尽くしてまいりました。

これまでを振り返りますと、わが国では度重なる政権交代により大きな方針の転換が進められ、政治・経済も大きく変化するとともに、東日本大震災からの復興対策など、地域経済や地方自治をめぐるっては、まさに激動の厳しい情勢下にあります。

そうした中、行政と市民が一体となって新市を作りあげていくためには、共通の認識、ルールが必要と考え、県内で初となる自治基本条例を策定し、市民参画と協働のまちづくりを進めてまいりました。

全国初のBRT事業である、かしてつ跡地のバス専用道整備や、石岡小美玉スマートインターチェンジ設置などの交通基盤の整備とともに、北関東の玄関口となる茨城空港の開港、小美玉市の魅力発信拠点「空のえき そ・ら・ら」のオープン、水の交流エリアの交流拠点「大井戸湖岸公園」の整備を行いました。

また、乳製品の普及による健康増進と地域振興を目的とした全国初の「乳製品で乾杯を推進する条例」を制定したことで、全国メディアに多数取り上げられ、全国有数の酪農のまちとして認知が広がりました。

さらに、文化芸術の分野では、徹底した住民参画による文化ホール運営で、まちづくりの新たな人材育成のあり方を示した「四季文化館みの〜れ」が、総務大臣賞である地域創造大賞を受賞し、小美玉市まるごと文化ホール計画も全国的な先進事例として、視察や講演依頼が相次いでおります。

これらの施策を行ってきたこれまでは、まさに合併で誕生した小美玉市の礎を築き上げてきた期間であり、将来像として掲げた「人が輝く 水と緑の交流都市」の実現に向け、政策を着実に展開してきたものと自負しております。

昨年の暮れには、旅行検索サイト「スカイスキナー」から「2017年 台湾で人気上昇の旅行先トップテン」が発表され、小美玉市が世界2位にランクされました。更に、自治体ごとの行政サービスや、暮らしに関する情報を提供している、地域・生活情報サイト「生活ガイドドットコム」の注目度ランキングにおきまして、先月の実績で全国1位に輝きましたことも、これまでのまちづくりとシティセールスが功を奏したものと考えております。

一方、将来の展望を考えますと、全国的に進んでいる少子高齢化と人口減少については、本市においても最優先で取り組むべき問題であり、小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略「ダイヤモンドシティ・プロジェクト」を着実に推進し、人・物・地域資源等の原石を掘り起こし、磨き上げ、光を当てて輝かせていくまちとなるよう、人口減少対策と定住促進に取り組み、若者が希望を叶え、地域が元気になり、子ども

からお年寄りまで小美玉市の魅力を誇らしげに語りだす、シビックプライドの高いまちを目指してまいります。

市の将来像である「人が輝く水と緑の交流都市」の実現に向けて、私の政治理念であります「対話と協調」に基づき、市民の皆さまの声に耳を傾けながら、その思いを重点的かつ積極的に取り組んでいく施策として、「地域内の交流の深化」、「市内外との交流の活性化」、「安全で安心できる環境」の3つを重点施策として位置づけるとともに、7つの基本目標により市政運営を進めてまいります。

まず、重点施策について申し上げます。

はじめに、「地域内の交流の深化」であります。

市民活動や地域コミュニティを活性化させることにより、互いに理解し協力しあう関係が形成され、それが地域の様々な課題の解決を担う関係へと深化していくと考えます。市民参画と協働のまちづくりを推進し、それぞれの地域の中で、輝きながら生き生きと暮らせるよう「人が輝く」まちづくりを進めてまいります。

次に、「市内外との交流の活性化」であります。

本市が誇る霞ヶ浦をはじめとした自然環境や歴史、文化など、地域の魅力を市内外へ発信していくとともに、茨城空港やJR常磐線羽鳥駅、常磐自動車道、幹線道路などの交通基盤の更なる整備促進、施設機能を充実させることで、人・物・情報の交流の活性化を図り、「水と緑の交流都市」の実現に努めてまいります。

次に、「安全で安心できる環境」であります。

安全で安心できる暮らしの保障は、自治体にとって最も基本的な責務であります。ハード面の整備とともに、「自助」「共助」に支えられた地域力の強化と外部とのネットワークを築いていくソフト面の充実にも積極的に取り組み、防災・減災対策を推進してまいります。

続きまして、7つの基本目標に関する主な施策であります。

みんなで創る自治のまち

はじめに、「みんなで創る自治のまち」であります。

市民と行政が、それぞれの役割を分担し、信頼と協調に基づき相互に連携しながらまちづくりを行う、市民協働のまちづくりを進めてまいります。

本市では、自治基本条例やまちづくり組織条例に基づき、現在58団体がまちづくり組織の認定を受け活動を行っております。市民活動団体の自治力向上と地域活性化を図るとともに、まちづくり組織連絡会を主体として、新たなまちづくり組織の設立支援、認定組織間の情報の共有、組織活動基盤の強化を引き続き行ってまいります。

また、市民協働のまちづくりを推進していくためには、コミュニティ組織の更なる活性化はもちろんのこと、組織間のネットワーク化を市内全域へ広げることが大切です。世代間の交流や伝統文化の継承、地域課題の解決などの取り組みを通じて、コミュニティ組織を中心とした地域づくりを目指してまいります。

国際交流活動につきましては、小美玉市とアメリカ合衆国カンザス州アビリン市との姉妹都市協定に基づき、訪問団の派遣と受け入れを交互に行っており、平成29年度は7月27日から8月8日の期間で訪問団派遣を予定しております。青少年訪問団の相互交流などを通じて国際感覚を育成し、国際化に対応した人づくり、まちづくりを目指してまいります。

男女共同参画の推進につきましては、引き続き男女共同参画推進委員会による啓発・推進活動を行うほか、男女共同参画推進フォーラムを開催するとともに、男女問わず誰もが活躍できる社会づくりを進めるため、男女共同参画推進法や女性活躍推進法の周知を図ってまいります。

未来を拓く快適・便利なまち

続いて、「未来を拓く快適・便利なまち」であります。

住んでみたい、住んで良かった、これからも住み続けたいまちづくりを進めるためには、道路ネットワークと広域交通の充実に加え、交通結節点の利便性向上を図り、快適な住環境を整備する必要があります。

まず、茨城空港を中心とした空の交流エリアの整備につきましては、(仮称)石岡小美玉スマートインターチェンジアクセス道路について、用地買収を進めるとともに一部工事に着手しており、引き続き県と連携協力しながら早期完成を目指してまいります。また、その他の広域幹線道路及び市内幹線道路につきましても、整備促進を進めるとともに、市内道路ネットワークの充実に努めてまいります。

次に、JR羽鳥駅を中心とした陸の交流エリアの整備につきましては、羽鳥駅の利便性の向上と交通結節点としての機能強化を図るため、橋上化を含む東西自由通路の整備と東西駅前広場の一体的整備を進めております。平成29年度は、橋上駅舎及び東西自由通路、東西駅前広場の工事に着手すると共に、東側市有地の利活用について協議、検討を進めてまいります。

次に、霞ヶ浦湖岸の水の交流エリアの整備につきましては、地域資源である霞ヶ浦周辺地域の特色ある景観の保全に努めるとともに、湖畔から望むダイヤモンド筑波を市の代表的な風景としてイメージアップ戦略の中核に据え、魅力の発信、地域の活性化を図ってまいります。

市内循環バスにつきましては、地域公共交通実証運行期間の延長に伴い、交通弱者の利便性向上や交通空白地域の解消などにより、一層の利用促進を図ってまいります。

下水道事業につきましては、公共下水道事業としまして、比較的人口密度の高い住宅団地内の下水道整備を目指し、昨年度に引き続き、花野井や栗又四ヶ等の管渠埋設工事を進めてまいります。農業集落排水事業につきましては、飯前・上吉影地内の管

路施設等の整備推進により巴中部地区整備事業全体の完成を目指すとともに、納場北部地区において、老朽化した処理施設の機器、設備の更新を図ります。戸別浄化槽事業につきましては、引き続き、年間 28 基の高度処理浄化槽の設置に取り組んでまいります。

水道事業につきましては、下水道や道路改良工事等に併せ、老朽化した配水管を耐震性のある管種に布設替工事を実施するなど、安全・安心なおいしい水を安定的に供給してまいります。また、将来における水需要の減少に伴う給水収益の減少が予測されるため、経営環境がより厳しさを増していく時代に向けて、施設の計画的な更新や財源確保による経営基盤の強化に向けた検討を進めてまいります。

市内への移住促進につきましては、移住促進住宅取得補助事業を新たに開始いたします。市内への移住者を対象に、住宅取得に要する経費及び移住に伴い発生する経費に対して支援することで、移住定住を促進してまいります。

うるおいのある安全・安心なまち

続いて、「うるおいのある安全・安心なまち」であります。

防災体制の強化としまして、市民一人ひとりの防災意識を高めると共に、地域の防災力の向上を図るため、自助・共助・公助の連携の精神を基本とした自主防災組織の強化を進めるとともに、市民参加型の総合防災訓練を実践してまいります。

防災行政無線につきましては、市全域で統一的な防災行政無線を整備し、住民への迅速な情報伝達を行えるよう、引き続き老朽化したアナログ式屋外拡声子局のデジタル化更新整備を進めてまいります。

LED防犯灯整備事業につきましては、平成 28 年度からの 2 ヶ年事業として進めており、初年度に行政区管理の防犯灯を整備いたしました。平成 29 年度には市が管理する防犯灯を整備し、維持管理費の軽減及び効率的な管理を図ってまいります。

ごみ処理広域化事業につきましては、小美玉市、石岡市、かすみがうら市、茨城町による広域化の枠組みによるスケールメリットを活かし、施設建設等に係る経費の縮減を図り、合理的かつ、安定した経営基盤の確立並びに安定的なごみ処理施設の運営確保を目指してまいります。

消費者対策推進事業につきましては、消費者団体や関係機関と連携した被害防止策の普及や意識啓発に力を入れるとともに、相談員 2 名を配置し、近年増加している悪質商法や多重債務、家庭製品による事故等の問題解決に向けて支援してまいります。

地域防災力の充実強化につきましては、消防団の消防ポンプ車を順次更新するほか、大規模災害時に生活用水を確保できる耐震性貯水槽を順次設置いたします。

空家対策につきましては、小美玉市空家等対策計画を策定するとともに、現在、市内に存在する約 500 戸の空家のデータベース化を進め、特定空家の解消を目指してまいります。利活用が可能な空家等については、空家バンクを整備し、ダイヤモンドシティ・プロジェクトと連動させ定住促進につなげてまいります。

ぬくもりにあふれる健やかなまち

続いて、「ぬくもりにあふれる健やかなまち」であります。

ダイヤモンドシティ・プロジェクトにおいて特に力を入れて推進する分野である少子化対策としまして、出会いの場の創出、恋愛・結婚のイメージアップ、子育て環境の充実など多様な事業を展開し、子育て支援と一体となった積極的な少子化対策を進めてまいります。

結婚推進事業につきましては、恋愛・結婚イメージアップ映像「ダイヤモンドウェディング」の配信や、多彩な出会いの場の創出とともに、ファッションやマナー、コミュニケーションなど、自分を磨き上げる各種講座を開催し、恋愛や結婚に前向きになれるまちを目指してまいります。

ふるさと同窓会応援事業につきましては、市民交流やふるさと回帰のきっかけを作り、定住の促進を図るため、市内で開催される同窓会に対し助成いたします。

子育て応援事業につきましては、子育ての喜びを実感し、ともに子育てに参画する意識の醸成のため、父親や家族を対象とした講座を開催すると共に、子育てに関する地域情報が一目で分かる情報アプリを活用した情報環境の向上など、小美玉市で子育てをする家族を応援する各種事業に取り組んでまいります。

健康づくりの推進につきましては、安心して子育てができるよう、きめ細やかな母子保健の充実を図るとともに、「全てのライフステージにおいて健やかでこころ豊かな生活を育むまちおみたま」を目指し、「おみたま健康いきいきプラン」に掲げた、こころとからだの健康づくり、食を通じた健康づくり、健康づくりの環境整備の各種事業を推進してまいります。

地域医療の充実につきましては、市民が住み慣れた地域で安心して暮らせる信頼の医療を確保するため、未来を見据えた地域医療の視点に立った取り組みを進めてまいります。

地域福祉の充実につきましては、地域住民を中心に自助・共助のバランスがとれた地域福祉の実現を目指し、誰もが安心して暮らせる福祉コミュニティづくりを推進してまいります。

高齢者福祉の充実につきましては、高齢者が自立して、いきいきと暮らすことができるよう、介護予防の視点による高齢者福祉サービスを図るとともに、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活が送れるよう、地域包括ケアシステムの充実を図ってまいります。

障がい者福祉の充実につきましては、ノーマライゼーションの理念に基づき、障がいのある人の社会参加の機会の確保や地域社会における共生を図るとともに、家庭や地域の中で自立した日常生活・社会生活が送れるよう、障がいのある人の本意に沿ったサービス等の提供体制を確立してまいります。

社会保障の充実につきましては、国民健康保険や介護保険、医療給付などの安定した運営と制度の適正化及び啓発を図ってまいります。

活力に満ちた産業のまち

続いて、「活力に満ちた産業のまち」であります。

茨城空港の就航路線の拡充には、搭乗率の向上が鍵を握っております。本市としましても、県や茨城空港利用促進協議会と連携したイベントやキャンペーン等を通じて全力で搭乗率向上に努めてまいります。また、空のえき「そ・ら・ら」において、牛乳祭りや玉子祭りなど「農業」や「食」への理解を深める活動を行いながら、茨城空港との相乗効果を図り、交流人口の拡大と空港の活性化を目指してまいります。

ふるさと納税制度においては、平成 28 年度は 2 月末現在で 14,824 件、総額で 1 億 6,985 万 5 千円の寄附をいただいております。今後も魅力ある地元の名産品などを返礼品に追加し、更なる寄附を募っていくことで、地元企業の活性化も同時に図ってまいります。

農業の振興につきましては、担い手の育成と総合的な生産基盤の整備を図り、付加価値が高く農村環境に配慮した安全・安心な農産物の生産を推進いたします。

また、地域特産品ブランド化推進事業としまして、他の地域との差別化を図り、競争力や情報発信力の優位性が確保できる付加価値の高い商品開発を進め、おみたまブランドとしての確立を目指してまいります。

水産業の振興につきましては、水産資源の確保や活性化に取り組むとともに、霞ヶ浦の環境保全を図ってまいります。

商業、工業の振興につきましては、地元商業の活性化を図り、魅力と賑わいのある商業環境の創出を目指してまいります。また、地元企業の安定的な操業の支援や交流の促進、新たな企業の誘致を推進し、市民生活を支える活力ある産業の創出を図ってまいります。

観光の振興につきましては、霞ヶ浦や緑豊かな自然環境、地域に根ざした歴史・文化など、恵まれた地域資源を磨き上げ、創意工夫を凝らした観光の創造に取り組んでまいります。

また、本市のイメージアップに大きく寄与する観光スポットを作り上げるため、市の花であるコスモスを、希望ヶ丘公園周辺と、霞ヶ浦湖岸に栽培します。眼下一面に広がる 500 万本の希望ヶ丘コスモス畑や、霞ヶ浦を彩る秀麗な風景の魅力を大々的に PR していく、花の香る里づくり事業を実施してまいります。

個性豊かな教育・文化のまち

続いて、「個性豊かな教育・文化のまち」であります。

学校教育につきましては、特色ある教育を推進するとともに、将来的な児童生徒の減少が進む中においても、良好な教育環境が維持できるよう、学校規模・学校配置の適正化に取り組んでまいります。「小美玉市立小中学校規模配置適正化実施計画」に基づき、平成 29 年度につきましては、平成 31 年 4 月開校予定の小川南小学校の校舎建築工事に着手し、玉里地区の小中一貫校は基本設計、野田・上吉影・下吉影統合小学

校は校舎建築の基本構想の策定を進めてまいります。また、コミュニティ・スクール促進事業としまして、学校と保護者や地域の皆さまが協働し、知恵を出し合い、学校運営に反映させることで地域とともにある学校づくりを進めてまいります。

文化芸術につきましては、「小美玉市まるごと文化ホール計画」に基づき、住民主役・行政支援の文化のまちづくりによって、年代や職種を超えた交流が生まれ、創造的人材を創出し、地域の魅力を高め、本市を誇りに思う、いわゆるシビックプライドを醸成しており、こうした取り組みが全国トップレベルの事例として注目を集めております。平成29年度に実施するアピオス35歳・みの〜れ15歳記念事業を通して参画の輪がさらに広がり、地域の活性化と若者の定住促進に繋がることを期待しております。

生涯学習の充実につきましては、誰もが自由に生涯にわたって学ぶことのできる生涯学習社会の構築を目指し、市民と行政の連携による生涯学習推進体制を整備するとともに、施設間の連携を強化し、運営内容及び施設の充実を図ってまいります。

スポーツの振興につきましては、いつでも、どこでも、誰もがスポーツに親しみ、健康でいきいきと暮らせる生涯スポーツ社会の実現を目指してまいります。また、児童・生徒に対する運動・スポーツの普及に関する取り組みとして、スポーツのすばらしさ、夢を持つことのすばらしさ、それに向かって努力することの大切さを学ぶ「夢先生派遣事業」を引き続き推進してまいります。更に、小川B&G海洋センターの改修工事において、施設の環境改善、バリアフリー化を行うことにより利便性の向上に繋げてまいります。

青少年の健全育成につきましては、学校教育、家庭教育、社会教育の連携強化に努め、社会参加の促進を図るとともに、地域における子どもの居場所づくりを推進してまいります。

また、今年7月22日、23日の2日間にわたり、小美玉市を会場に戸沢サミットを開催いたします。戦国時代から江戸時代草創期にかけて、常陸国松岡藩の藩主を経て新庄藩主となった戦国大名、戸沢政盛公を顕彰するとともに、ゆかりのある岩手県雫石町、秋田県仙北市、山形県新庄市、茨城県高萩市、小美玉市の5つの自治体が情報交換や連携を図りながら、相互交流を深めることを目的としており、戸沢氏や市の歴史を広く伝えることで、シビックプライドの醸成を図ってまいります。

ぜひ多くの皆様方のご出席をお願いいたします。

信頼で築く自主・自立のまち

最後に、「信頼で築く自主・自立のまち」であります。

地方創生の推進としまして、ダイヤモンドシティ・プロジェクトを総合的かつ一体的に推進していくため、「結婚促進」、「魅力創出」、「移住定住促進」の各事業を官民連携により複合的に実施する全国に先駆けた取り組み「ミライカレッジ小美玉」を更に発展させ、地域資源の発掘、シビックプライドの醸成、市民一人ひとりの魅力発信力の強化を図ってまいります。

広報活動につきましては、広報紙及びホームページなどにより、分かりやすく、かつ積極的な行政情報の発信に努めることで、市政への市民参加の促進を図るとともに、市政モニター制度や提案はがき、対話の日など幅広い広聴活動を行い市民の皆さまとの情報の共有に努めてまいります。

行財政改革につきましては、市民ニーズを反映した行政サービスの提供と安定した行財政運営を確保するため、更なる行財政改革を推進するとともに、計画的な財政運営、財政構造の弾力化に努めてまいります。また、多様な行政課題に対応すべく人材育成の強化に努めるため、職員研修の充実を図ってまいります。

現在、市では茨城大学人文学部との間で地域連携協定を締結し、ダイヤモンドシティ・プロジェクト推進にあたり学生参画などの連携を進めておりますが、新たな取り組みとしまして、4月から茨城大学人文学部地域政策研究コースへ職員を入学させ、地域課題の発見や解決策を研究するプログラムを通して経済社会状況の変化を的確に認識する能力と高度な専門性を持つ人材の育成を図ってまいります。

広域行政の推進につきましては、県央地域の9市町村が連携して定住促進につなげていくため、茨城県央地域定住自立圏の連携事業を平成29年度からスタートさせ、多様化、高度化、広域化する行政課題に圏域全体として対応してまいります。

平成29年度は総合計画の最終年度となり、次期計画となる第2次総合計画は平成30年度から平成39年度までを計画期間として、広い視野、計画的な視点に立ち、市民の皆さまの参画を得ながらダイヤモンドシティ・プロジェクトの内容を組み込み、市民ニーズを十分に反映して策定してまいります。

以上、平成29年度の市政運営について、所信の一端と主な施策の概要を申し述べてまいりました。

繰り返しとなりますが、総合計画後期基本計画の総仕上げの年でございます。

「ダイヤモンドシティ・プロジェクト」の推進とともに、第2次総合計画の策定に向けて、豊かな自然や歴史・文化など、恵まれた地域資源と、まちづくりの基礎となる人的資源を最大限生かしながら、市民参画と協働によるまちづくりを進め「住みたい、住んで良かった、これからも住み続けたい 小美玉市」そして、「人が輝く 水と緑の交流都市」を目指し、実現に向けて全力で取り組んでまいります。

議員の皆さま並びに市民の皆さまにおかれましては、より一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。